WASON

Jan. 1892
no. 301

女學雜誌

第三百一號
明治二十五年一月二十三日發兌

パアネルを弔す　妹エミリー

道德上に於るシエクスピア

孤女學院設立の告白　大須賀亮一

サマセット女史及ひ其肖像

國民之友新小說　雲峯子評

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 301. JANUARY 23TH. 1892.

第三百一號目次

●社說 孤女學院の近況○孤女學院設立の告白（大須賀亮一）
●雜錄 パーネルを弔す（妹エミリー記）○マルタとマリア○我亡夫（けい子）○女子の設けたる倶樂部
●叩扉 ヘンレー、サマーセット女史及其肖像
●理學 冬の空氣○黑インキ作り方（吉田伸子）
●文學 道德上に於けるシエクスピア
●隨感 日本人、人物の趣味○理想の敎育
●批評 國民之友の新年附錄小說（雲峯子）○小說評注及油地獄（撫象子）○英雄經（川合信水）
●時事 形勢○第三期議會○辭職す可らず。

EDITORIAL:—The Beginning of "the Asylum for orphan girls"; Mr. R. Osuga's proffessions about his Asylum.

MISCELLANEOUS:—My Brother (by Parnel's sister); Martha and Mary; My Dead Husband (Kei-ko); Woman's Clubs in America.

INTERVIEW:—Lady Henry Somerset with her portrait.

SCIENTIFIC:—Winter Atmosphere; How to make black ink.

LITERARY:—Shakespeare on Conscience.

THOUGHTS AND FANCIES:—Ideal Hero of the Japanese; Ideal Education.

CRITICAL NOTES.

TOPICS OF THE DAY.

NEWS OF THE WEEK.

REPORT from the "Evangelical Band in the district of Earthquake disaster." (No. 12)

新發明品 **手桶湯わかしの廣告**

一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扨て、此の儉約を爲さんには、家の內の用事を成べく簡略にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみあらず、勉强を生じ、人々心はげみて皆々面白くなり、一家相樂しみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームと爲すものなり。

此主意を以て、吾社はホームを美しくするに樣々心を碎き多年、文筆敎育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家內の實際の改良を促かすとの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、臺所元の入用を少くするの方法を工夫せんとす。

扨て第一に工夫したるは、手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす。器具は至つて簡便なるものにして。手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても皆な用ゆべけれど、冬向き台所用に使はんに、手桶に投げ込み置き、二十分にて湧きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寶ならんと思ひ付き假りに「手桶湯わかし」と名づく。

代價は銅製にて一個一圓五十錢とす。更らに追々工夫して廉價にて出來上るやうにすべし。

各地方にても配達運輸すべし

東京麴町區下六番町六番地 **女學雜誌社家具部**

北海道一手賣捌 函館末廣町四十九番地齋藤政七

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百一號
明治二十五年一月廿三日發兌

社説

孤女學院

驚喜の餘り、逸早く去る頃ろ世上に報道せし、大須賀亮一君が孤女學院は、其后幾多の考慮計畫を經て、近頃ろ遂に市外王子の頭、瀧の川の邊りに新築せらるゝことゝなりぬ。

大須賀君は、過る日、岡山孤兒院の石井十次氏と面談し、其過來し方を尋ねて種々の經驗を問ひ、亦た行く末を共に約して縷々連交の契りを結ばれたり。而して、今は、院の敎育法に關して深く研究中のよしと聞く。

同君の禆助者となり、一生を此院に獻げたる四方之善氏は、多年女子敎育に熱心し、前年北海に開拓を創め、他日の女子敎育財產に宛てんことを計られたる人なり。現今は其知り人にて亦た同じく女子敎育に熱心なる某、同氏に代りて彼地の開拓に從事せらるゝが故に、此度び全く院內に身を投ぜらるることゝなりぬ。則はち、昨日京を發し、孤女を伴ひ歸らんが爲めに震災地へと出向はれたり。

前回既に記したる如く、大須賀君は、其財產を悉とく、擲つて院の爲に使用せんとし、其產盡き多少の經驗生じ幾分の實効を奏するに至りて、初めて、世上同志の人の助力を請はんことを欲せらる。斯て、七八百坪の地所と、五十人住ひの院舍とは、既に其所有となり(舍は目下建築中)、尙數ヶ月の支給は備はれるが故に、君は未だ曾て他に義捐を要めざるなり。然れども、最早院の美擧を聞傳へて、遠近より寄附せらるゝ方少なしとせず。府下在住の老婦人會は、既に衣類十數品を寄せ、安中の有志者は同じく數十品を寄せ、甲府の姉妹は義捐幻燈會を催ふして其收入數十金を寄せ、橫濱の人某、熊本の西洋人某、は十圓十五圓を寄せ、府下某女學校の生徒は孤女學院補助會など云へる團結を造り、從來休日の折に買求めたる菓子を一切廢止し、其入金を集めて院に贈ることゝ定め、既に第一回集金六十錢を寄せたり云へり。

大須賀君は未だ世人の義捐を要めざるなり、故に吾人は此主旨を以て讀者を促がすことなし、但だ女學上の此の美擧が情況は、一々細報して其好感化を讀者諸君に分たざるを得ず。今左に同君が告白文を收錄するに際し、其近況を敍す、

孤女學院設立の告白

主旨

天下不幸の人孤兒に及くものなけん、父母之を生めども之を育くむとなし、躰内之に備はれども未だ自ら活くるに足らず、反つて之が爲に餓んとす、辛ふじて生き存らふる者は流浪轉々して辛苦艱困の間に沒し、絶えて愛養に接はるとなし。之を以て人情發育せず、長ずと云ふと雖ども成人せざるに同じ。夫れ人の世に生れ來る億兆の民皆な個々の使命あり、何人か徒らに出で徒らに枯るゝ原頭の草の如きものあらんや。然るに之に乳するの母なく、之を養ふの父なく、之を温たむるの室家なく、眼を開き天日を見たる緑兒をして餓えて死せしめ僅かに長ずる時は則はち之を頑鈍無智の惡童たらしめんとす。抑そも人世の道ならんや。苟くも仁志ある者は之を救養せずんばある可らず。

仁人爲に孤兒院を設く、感謝せざる可けんや。然れども、啻に之を養育成長せしむるのみに止まらず、更に教育上の期望を以て之を待し、其器に隨つて成るべく完たく之を開發教導せんとを欲するに於ては、孤兒を男女によりて分ち、其各途に於て之を尤とも適するの方向に誘導啓發するとを最良なりと信ず。

吾等從來女子教育に從事し、密に一生を斯事に任ぜんとを期せり。久ふして惟へらく、普通一般の女子教育に至りては、世別に之に任ずるの君子あり。然れども、孤女の教育に至りては、倘未だ專ぱら之に任ずるの人あるを聞かず、吾等不肖と雖ども先づ之に當らざる可らずと。終に意を决し、敢て其使命を負ひぬ。

假令ひ賢良の婦人となると能はざるも、尋常の女德を備ふるものは倘可なり。孤女に至りては其幸にして生存するものも、或は賣られ、或は惑さるゝもの多し、遂に不德に陷いらざるものは甚はだ少し。

賢母あるの娘子は幸なり、室家あるの女子は幸なり、或は學資あり、或は父兄あり、以て女學の教養を受くべし。たゞ彼憐むべき孤女に至りては、人の之を利用惡引せんとするものあるのみ、たとひ女子教育の道大ひに擴張すとも、以て自から教を受るに堪へざる也。吾等不肖と雖ども、先づ此流の姉

妹が爲に身を獻せざる可らず。

吾等素と富まず、然れども孤女に優りて有する所のものは悉とく孤女の爲に義捐せんとす、而して孤女と共に飢餓を分ち、皇天もし吾等に食を賜はずんば、則はち孤女と共に餓死せんとす、而して皇天もし孤女と吾等とに一日の命を與へば、則はち共に與に一日の學を修めんとす。

然れども、天父既に孤女を生ず、何んぞ孤女を殺し玉はん、既に孤女を生かす、何んぞ孤女を敎え玉はざらん、既に孤女に敎ゆ、何んぞ孤女を用ひ玉はざらん。孤女好く人と成り、異日邦家の爲に益を成さば、女子敎育の慶事、何ものか之に及ばん。

故に吾等は天父に祈り、其與へ玉ふものを以て衣食し、其許し玉ふものを以て學びんとす。孤女は其器に隨ひ、下婢となり、保姆となり、女工となり、産婆となり、看護婦となり、敎師傳道師となり、以上その才の伸暢するまに〳〵、何等女流の率先者ともならんとす。而して吾等もし其の發育敎導の爲に修生の力を捧ぐることを得ば幸なり。

斯の志を以て茲に孤女學院を設立す、天下同念の兄姉ありて、もし吾等に敎え、吾等を助け玉はば、感謝禁ずる能はず。

定則

一 本院は基督の敎訓を奉じ万事神の指導に從ふべし。

二 本院は專ぱら孤女を養育し可出來完全の敎養を授け以て淸き婦人を出さんことを目的とす。

三 本院は何如なる事情ありとも一切金品を借用せず、只神の與へ玉ふものを以て支給すべし。

東京王子元瀧の川村

孤女學院

大須賀亮一

（一）元瀧の川に於ける院舍新築未だ落成せざる内は下谷西黑門町二十二番地志方之善氏方を假校舍となせり。

（二）本院に對する用向は下六番町六番地女學雜誌社に於ても代り辨ぜらるべし遠路不便の諸君は同社内藤井米八郎氏に就き談ぜられたし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

パーネルを弔す。

妹 エミリー 手記

エミリー、ヂッキンソン夫人は故パーネルの遺妹之。頃日「アボンデール」より左の一書を「ダブリン」の新聞紙に寄せしよし「パル、マル、ブゼット」に見えたり。

兄チャーレース、ステワート、パーネル物故のをりは、諸方のかた〴〵より御親切なる御見舞状にあづかり忝く存じ上まいらせそろ。其節いち〳〵ごへんれい申しあげべく候得共こんざつにとりまぎれ得差上申さず。さ候へども亡兄の志を左程にも御存じ被下そろことかへす〲も恐縮のいたりにござそろ。いたく亡兄を悪しみ給ふかたのあるにつけても、いたく御懇情申上げたるかたも少なからず、日頃亡兄が人々を思ひし一例にもと今あやしき水茎のあとを參らせそろ。

過ぬる霜月の二十日に「カビンチーリ」にて集會の有之候折、わたくしは娘同道にて「キングスタウン」迄參り、其よりコルパート様と亡兄と都合四人馬車にて會場へ赴きしが、わたくしは兄とならびて乗り申しそろ。生憎雨天にて空はすさまじく荒れ候ものから、歓迎のために御出被下候大勢の中には、ぬる〻をも厭はせられず、泥中を素あしにて歩み給ふ人のあるを見て、亡兄は大に氣の毒に存じ、人々は雨中のところを御出さへあるに、おのれらは安楽に車上にあり候こと、内心に忍びがたくてや、頓て「コート」を脱ぎ、帽をとり、凡そ一時間あまり雨にうたれて人と物語り申し候。これは誠にさゝいなることの様に御座候得共、亡兄が人を思ふの一端は見え申すべくそろ。敵となり給ふ方々の中にパーネル程の極悪人はまたと世になき様に申され候得共、むかしより悪人の孝行悌愛をつくし、小兒禽獣にいたるまで慈愛をかけしためしは、なかるべく候。悪人ともいふべきものが、國民の安危を一身の肩にかけ、又は家内の小事にいたるまで親切をつくし、國會の最中にて妹の病氣といふに、「イングランド」より故郷までそが看病に參るべき筈の候はんや。過にし年わが良人の身まかり申候折も、亡兄來りて種々にわたくしを慰め、キャプテン、ヂッキンソンの亡骸を、「ブルッセル」より送りきて「アボンデール

の近くへ葬りくれ申し候。其節わたくしは禮のかず〳〵を申せしに、思ひし程には届きかねつと申し居りそろ。是は今より八年前のことにて御座候が、其程よりは父とも良人ともなりて萬端の世話を致しくれ候。わたくしどもが顔をあわせたりし最後の時は、「ダブリン」の友人の宅にて筵を開きたるその折にて候。わたくしの別れんとする時、亡兄は立ちてみづからわたくしの上衣のぼたんをかけ呉れ申しそろ。他人の妹のぼたんをぞかけてやる男子は多かれ、好で其妹のぼたんをかけんとするものは少からん。「アポンデール」にて母の大病ありし折は、常に自ら暖爐に石炭をいれて、終夜火の氣を絶へしめず、母を大事に思ひて、何事も他人の手に致させ申さず、世に母を粗末にせし悪人といはるゝパーネルは、かゝる孝行を致し申しそろ。「アイルランド」は左程に蹈み卑しめたる心の中に、反て友愛仁俠の德ありしことを知り申すまじ。とても高きに過ぎて世の人の目に見え申さゞるか。嗟呼パーネルの逝きしは、あやしむべきことに候はじ。いかにしてうみやまをほふまごゝろをもろき命につなぎてんや。

マルタとマリア（中）

マルタはイエス來玉へりと聞て之を出迎へマリアはあな室に坐せり、マルタ、イエスに曰けるは、主よ此に在せしならば我兄弟は死ざりしものを……マリア、イエスの所に來り彼を見て其足下に伏し云ひけるは、主よ若し此に在せしならば我兄弟は死ざりしものを。

兄弟の死せしを歎き、基督の來玉ひしことを喜こび、而も之を憾むの情は、マルタ、マリアの姉妹二人ながら異ならず。左れど、此異ならぬ同情の外に、二人性格を均しふせざるより發する異樣の所あり。

マルタは平素忙わしき質なり、英敏、迻速にして、事務を巧みに處理するの器量能力を有し、活潑に自から運動するのみならず、能く人を勵まして之を動かすの伎倆あり、左れば家の内の繁雜なる數多の事務を尤とも敏活迅速に處置し、生平己れと其任に當ることを孤疑せざりき。マリアは獨り靜まりて之を助けざるにはあらねど、總べて考の深き方にて、感情も熱く且微やかなりき、而して靈性の問題に心を凝めがちにて亦たかゝることに思ひを注ぐはその尤とも長ずる所なりき。故

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に何事か起らんとき、唯一つの觀念に思ひを密めて、他の万事を暫らく放念するとは其極めて爲し易き所にてありき。

左れば、曩の日、基督が彼等の家にて道を語り玉ひし時、マリアは其足元に伏して敎を聞しに、マルタは、多くの事に思ひ煩らひ其賓客を待遇さんとて、勉め且つ熱心したり。もし、基督の世に來ませしは、「遇なされん」が爲めにあらんには、何如に、マルタの信切を喜こび玉ひけん。されど、基督は、「遇されんとて來らず、人を遇さんとて來玉ひければ」、彼の忙わしげにして道を聞かざるマルタよりは、謙遜熱心にして主の口より出る尊とき御言葉を謹聽する、マリアの方をこそ可しとし玉ひけめ。されば、マルタは、たゞ一人して働らくやうに思ひて、かごとがましく、

主よ、我が姉妹はわれを一人遺して勞動しむるを何とも意はざるか彼に命じて我を助けしめよ

と言ひしとき、主は之に敎えて、

マルタよ、マルタよ、爾ち多くの事により思ひ煩らひて心勞せり、然ど無て叶ふまじきものは一なり、マリアは既に善業を撰びたり、此は彼より奪べからざる者なり。

と言ひ玉ひき。

基督を賓客とするは、非常の特權、無上の榮譽なり。如何にして之を待し參らせしかと云ふに、其のあいしらひ方は姉妹によりて異なれり。彼時之をあいしらひ奉るの方異なりしが如く、兄弟を失ひて之を迎へ奉るの今ま、之に對するの思慮亦同じからず。

基督來玉へりとの報告は、先づマリアに屆きたり（ヨハネ傳十一章二十節）。此は彼女が家の主人なるによりてか、又は例の如く家内を歩みまわり、恐らく家の出口などに立ちてありしが爲めなるべし。彼女は此報告を聞くと其がまゝ、直ちに出でゝ之を迎へたり。彼女は、出入、進退に特の外迅速にて、何時にても直ちに辨ずるほどに準備してありけり。多くの人來りて慰さむるにあひ、千々に語りあふ途端、スハと聞きて直ちに趨り出づるとを得るなり。

されど、マリアは憂ひに沈むと更に深く、ほとんど落膽失望して、「マルタはイエス來玉へりと聞て之を出迎へたれど、マリアは尙ほ家に坐せり」。

マリアの憂ひは一層深し、慰さむるもの之を見とめて就中同

情を表し、何如にともして慰さめんとしたり。されば、そが立つて基督を迎へんとて出ゆくを見てすら、「彼は墓にゆきて哭くならんと」曰ひつゝ之に随がひ行ける。然れども、マルタが出でゆくを見ては、かく想像するものなし、彼は例の如く忙わしく何事かの用向にて出るならんと思へり、常の事とて氣をとむるものなし。されど、マリアが出づるとあれば、泣に行くより外あらざるべしと何人も思ひけり。

主が道を語り玉ふ時すら、家の事に忙わしくして之を謹聽せざる人は、兄弟死し同じく歎くの中にも亦いさゝか輕ろき所ろあり。思ひを一つに凝め、足下に伏して熱心に道を聞く人は、兄弟の不幸に憂ひ沈みて、容易く思ひを移すとなし。基督たゞマルタを見て、マリアを未だ見玉はず、さこそ歎くべけれと案じて直ちに之を問ひ玉ひしかば、マルタは心得て亦急がしく家に歸り、そと妹を招き出し、「師來りて爾を呼び玉へり」と告げぬ。

マルタは、物言ふとを得ざるほどに憂ひに沈まず、沈靜、冷穩にして、直ちに神學論を唱へ出すほどの餘裕ありき。その信ずる所ろ、其望む所ろを明らかに述たり。此の失望に會すとも、毫も信仰を動かさずてふとを、此の折に於てすら、自から告白するの勇ありき。「主よ此に在せしならば、我兄弟は死ざりしものを」と、一種意味ある氣なる言語を發するとすぐさま、直ちに身から氣付き、更に其意味を説明せんとて、「然ながら、たとひ今にても爾が神に求むる所ろのものは神なんぢに賜ふと知る」と引續けて辨じ、意義を一層明瞭にするの沈着あり。同胞を失なひて万事茫然たるの景色あるを見ず。沈着には相違なけれど、一の冷やかなる落付とこそ言ふべけれ。主の短かき說敎を聞き、一と議論を試ろみ、而して其意を酌んで、納得し、最后に其告白を爲せり、曰く、主よ、然り、我なんぢは世に來るべきキリスト神の子なりと信ず。

妹マリアは之に異なる。主召び玉ふと聞き、靜かに立ちて急ぎ之に趣むく、姉に劣りて師を敬せざるにはあらず、たゞ心、憂ひに滿ちて悲しみに堪へざるとき、主を見奉まつりて彌よ亡き兄弟を思ひ、心切まりて明らかに言ひ述ると能わず、涙にむせびて、たゞ、主よ、汝もし此に在せしならば我兄弟は死ざりしものをと言ふに過ぎず、そのまゝ泣いて、胸迫まり、足下に伏して靜かに拜するの外なし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

イエス、涙を流し玉へり。"Jesus wept."。此の短き寸言は如何に多くの意義を含むや。墓場に到り、石を取り除けよと命じ玉ふとき、マルタ曰けるは、主よ、彼は早や臭し、死てより已に四日を經たりと。此の反對論を叫びたるは、彼の靜かにして肅しみ、謙遜にして主に賴りたのむ、妹のマリアにてはあらざりき。基督は、マルタを幾分か擯斥し、其疑ひ深き多言を戒しめ玉ふが如くにして曰く、「爾もし信ぜば、神の榮を見るべしと我汝に言ひしに非ずや」。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

我亡夫（上）

けい子

思ふも涙記るすも涙郵便配達夫の足音、物案ずる身には、胸先づ轟き、徐に起て門の郵便函より持ち歸る一通、座に就て、封おしきり默讀する其文言に。

………貴兄御歸鄕の義早速先生に相伺ひ候處、御熱氣なければ好天氣の時を撰び御發足あるも苦しからずとのことに候、されど身躰を動かすは決して御得策には之なく候間其邊は呉々も御注意なさるべく先づは右御返事まで早々頓首。

明治廿四年四月某日　　高岳某

けい子様

此某なる人は、妾が從弟にして、妾が夫肺患に罹りしより、此方治療を受けたる、駿河臺邊當時第一流の國手と聞えたる某醫博士の藥局長を務むる藥劑士なり。今日しも我夫の歸鄕して加養したしとの命に任せ、某を經て國手の意見を、問ひ合せたる文の返しなり。

讀み終りて、不圖頭を擧げしに、又もや我視線に觸るゝ紙片、片手に採りて復び讀み下し二行目に至るや、否や、憐れなる妾は劇に顏色を失ひたり。憫れなる妾、殆ど絕倒せんとし一刹那次の間に響く呼び鐘ならし玉ふ我夫「ハア……イ」と無心に我口より發せし一語、調子整はずして威勢あし。狼狽て紙片を懷中に、膝の上ある手紙を袂に入れ、無理に笑顏を造りて入る一間、病臥せし夫に、樣子見られじとて、夫の枕邊に逆て座し、特更におちつきたる言葉振にて、「御用ですか、ちつとはおよれましたか。「利段用はないんです、……先刻手紙が來やうでしたが……何處から來んですか。二言三言問ひ賜ふさへも斷れ〳〵にて力なし「高岳から返事をよこしました。お國え居しつてもいいが、よくお氣をお附けなさらなくつてはいけないつて、先生が抑やつたそうです。手紙を御覽に入ませうか。袂より出し開て夜具の襟の上に置、持添參せしに、落凹たる眼を見

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

開き、前書きには目も觸れ賜はず、中程の要めの所より讀み下し賜ひしが、後と前き揃ぬ文面を觀て隱に覺らるゝ所ありしか、意味あり氣に憐れなる冷笑を帶びたる語氣にて　夫「其れでは愈御出立か、嘆あなたにも心配ばかりさせた……何事も天……天縁だと思て下さい……何んでも心配しちやあいけない、心配しては。」言ひ終て兩眼を閉ぢ、我夫は身動きもし賜はず。妾は涙にかすむ目を拭ひて、そと側面より我夫の顏をのぞきました。其時無言の我夫の心中には、何を畫き賜ひつゝありしか、目じりをつたはつて落る一雫、此一雫が我顏中に映ぜし時の妾が心中、腸を寸斷せり。泣聲を漏さじとて、一心に袖を噛しめました。時は猶豫せず、無言の中に、はや十分時ばかり、容赦なくさつ〳〵と過ぎました。病み疲れてもさすがは男子です、氣を取り直されしか、少しく判然したる聲にて　夫「あなた……そこで何して居るのです……もう何時ですか。と云ひながら、妾の方え少しく向き直り賜ふ。同時に妾が心中の知らざる所より、こんな泣き顏を見せてはならぬ、止めよ、止めよ、と云ふ命令が下りました。此命令に勵まされて覺束ない目を注け、時計を見ました。妾「もう三時です……肉汁を暖めませう、又少し上つて御覽なさらないか。夫「肉汁……私も飲みますが、……あなたも飲ではどうです……今あなたに煩らはれたら大變だ、……此頃は毎晩ろく〳〵眠ない樣ですが……それでは身躰がたまらない……私がもう死……こんな弱い身躰になつてもあなたが健康で……小兒の事も親の事も萬事やつてくれゝば……私は安心、……あなたの身躰は私の身躰だ…………私を思ふてくれるなら、あなたの身躰を大事にして下さい……あなたは不斷半身半身と云くせに。」今死生の間をさまよひ賜ふ身を持ながら、猶妾をいたはり、限りなき愛情を顯し賜ふ我夫。妾の心をいかに、此愛情の波動が振動せしめしか、涙に死してもまだ足ませむ。煮湯か熱血かと疑ふばかりの涙が脆くも膝の上に滴りました。……暫ありて妾は滿身の勇氣を兩足にこめて立上り　妾「其では肉汁を澤山暖めて來て、此處で一所に戴きませう。」輕く口には言ど、頭は益々重く、糊にて疊に張附られん樣感ぜらるゝ足を、無理に引づりながら、よふ〳〵歩む妾の後すがたを、瞳をよせて見送り賜ふ我夫の心中、見送らるゝ妾の心中、思きつて襖を立てきつて、臺所に行ました。先火鉢に向て、灰をかきやり、炭をつぎ、戸棚にある肉汁の

壜より肉汁をとり出し、小鍋に移し火に掛け、ジッと見詰て復パラ〳〵と一雨催しました。嘆々妾が斯うして暖めてまゐらする肉汁も今日を限りとなることか、明日を限りとなることか、一分時一秒時なりとも、我夫の壽命を……神よ神よ……あたりに幸ひ人も居らねば、妾は泣き倒れて祈りました。

女子の設けたる倶樂部

人の事業の半ばは合同によりて成る、而して合同は倶樂部を組織するにより固きとを得。今夫れ女流協和の事業を成し、其勢力を熾んにせんとするには、倶樂部の類を設くるに若かざるべし。今ま、最近の報により、米國の女子クラブを列擧す。

今の米國婦女子は世の改革者といふべきかな其活潑なる精神は是迄いたづらに男子に屈服したる窮態を改めんとするの勢なり。彼等は各地になせる事業を以て、一層高尙なる生涯に天下の女性を啓道するが中にも其改革の方法のあり〳〵と見ゆるは、女子の設けたる倶樂部にてあるべし。

是等の倶樂部は、其敎育增進の他目を驚かすものありと雖も是が爲に敢て天下の害となるの氣遣ひはあらじ。元來男子と女子との性質の上にはなか〳〵の相違あるに、因習の久しき遂に男尊女卑の俗をなしたれば、一旦俄然機運啓け來りて、女子公共の目的の爲に相聚る曉に到りたるに、其爲す所大に男子の共同事業に異ふるものあり。其相違たるや、先づ男女の倶樂部に顯然也。男子の倶樂部といふ時は、通常贅澤三昧を主になして、骨牌遊戯吸烟玉突の諸室を備ふるに、女子の倶樂部に至ては、殊に社交の目的に作りたるものさへ、慈善の基礎を加味せざるはなし。男女倶樂部の相違天地なるは、其創立の際に於て既にいちじるく見えたり。

○ニユー、イングランド女子倶樂部

是は千八百六十八年即ちエリザベス、スタントン。ボレース、グリーリー。ルーシー、ストーン。トーマス、ヒッギンソン。ジユリヤ、ホウ。ジヨージ、コーチス等がはる〴〵社交政治の上に於て大に女權擴張を唱へし頃ボストン府ハリオツト博士の宅にて組織をなしたるものと見ゆ最初の役員中には

エヌ、ピー、ウイリス夫人（詩人の妻）　エリザベス、ピーボテイ女史
ルーシー、ゴッダード夫人　ラルフ、ワルド、エマーソン夫人
ジユリヤ、ワード、ホー女史

など見ゆ其他ルイサ、アルコット女史の如きは有名なる會員なりき其目的といふは會場を設立して智識道德上の利益又は社交上の快樂を得るの團結を作るとありたり而して之に「社會改良」なる一事を加ふ。

○博愛倶樂部（チヤリチー、クラブ）

是はボストン府に設立せられしものにて女子が倶樂部に於る事業の常に活氣あるは「改革の兒鑑」と呼ばれたるにて知らる博愛倶樂部は酒の爲に身を過つ同胞の警醒を旨となせども慈善の事業一定の方針を定めず敎育慈善政治社交倫理文學諸般の改良等にそれ〴〵の委員を備へたりといへり。

○新舊倶樂部（オールド、エンド、ニユー、クラブ）

是はマルデンに作られし組織にて同志相輔くるを其目的となすにあり會員百名程ありて此目的を行ふが爲に結社集會の熟練を貴び相集る時は常に議院法の嚴律を用ゐたり發起人ハリエット、ロビンソン夫人の言葉に該女子倶樂部の天職とは他日女性の上に來る可き大義務の爲に用意の途を爲すものこそといへり。

○ソロシス

女子の倶樂部にして男子と毫も關係なき組織の第一着は即ち有名なる「ソロシス」之是は千八百六十八年ニユー、ヨークに設立したる倶樂部にて其創設に力ありしは

チヤーロット、ウイルバー夫人　ケート、フィールド女史
デマーレスト夫人　ウエニー、クロリー夫人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

などの人々也其目的といふは文學技藝學術的の趣味ある女子の間に有益なる通路を開きて女子及び社會の上に影響を及ぼす所の事物を討論し女性發達の方法を研究するといふにあり「ソロシス」の興りしや大に當時の社會と關係ありしにより偏頗なる政論神學說を禁じ會員は直接に慈善其他の會務に抉掌することなく是は委員の手に行ひて其報告をなすにとゞめ斯て「ソロシス」は最も快樂なる會合となりたり其事の首なるものを擧くれば

　貧女救濟に盡力して經濟界に影響を及ぼせし事

　女子高等教育の爲に政府及び諸大學へ請願の事

　千八百八十九年米國諸州女子俱樂部同盟大會を招集せし事（因記この同盟大會には百十七の俱樂部其招きに應じたりとぞ）

などなるべし此頃よりして女子の俱樂部といふもの其數を加へ世に聞えざるものあまたありウイキタにて四十二の俱樂部ありたれど僅に其內の二のみ同盟大會に入りしを見ても知らる。

かく俱樂部の續出するに隨ひて其事業の地勢に因みあることを怪む可きに非ず米國東部にては戶々食を給する豐かならず故に俱樂部の事業多く慈善的にてしかも經濟上の勞働より實業の區域に入り婦女子に內職を授くるの約束あり南部にては保守的の精神未だ堅くして俱樂部の名ある結合を許すこと稀なるに貧民多くして慈善博愛教育などは其主なる目的なるべし（但ニユー、オルレアンス女子俱樂部の如きは例外也）西部にては土地豐饒故に文學社交的の性質を多しとす然れども教育の爲に力を竭すは此地方也。

　（ジエーンスピルの午後俱樂部は文學教育宗教美術の爲に盡力せること世に聞ゆ又千八百八十四年ノース、ダコタに文學的俱樂部起れり）

以上の如く女子が共同事業の上に得たる新智識は是迄女子に結合の天賦なしと世に認められし誤謬の反證となりぬ是等の俱樂部は時を經るに隨ひて中央集權の必要を見るに至れり。

〇萬國女子公議會　ワシントン府にて開く
　內國女子公議會　同じく

是等は前述せる女子共同の大勢に明なる如く女權擴張の結合なり其內急激なる改革主義を抱きたる女子多くして世に反目せらるゝこと少なからず。

〇婦人基督教徒禁酒會

是は米國女子結合の中にて最大のものなるべし女子の投票を待つに非ざれば米國の禁酒業は成らずといへり會の數は全國を通じて十万の上に超へ會員大凡五十万人を有す思ふに是婦人禁酒會は女子の共同事業中最も完全に發達したるものなるべく會員悉く「女子十字軍」を以て自ら標置せり。

〇婦女同盟（ウーマンス、アライヤンス）

是は千八百八十九年イリノイスに設けられし近代の組織也女子の俱樂部は一定の目的の爲に與るもの多きが內に是同盟は其範圍更に廣くして子女の友といふも其題目となし概して經濟上の問題に盡力す改進の氣風段々として其事業の上に見えたり。

〇キングス、ドーター

是は宗教上の基礎によりて教育並に實際上の事業をなすもの也創立の際には十人の會員なりしが五年にて數万の入會者を見るに至る其事業は教育慈善內外の傳道勞働の事業などを旨として其組織は萬國に亘れり。

〇基督教徒女子青年會

是も亦宗教上に立つ萬國同盟の俱樂部也其起りしは千八百六十八年ボストン府にてありし宗教教育の上に非常の効を竭せしは人の知る所也。

〇勞働女子青年會（ウオーキング、ガールス、ソサイチース）

是は今より七年前グレース、ドッヂ女史といへる資產教育を兼れたる人の企圖にして勞働に從事する青年女子の品位を高むるを目的となし是が爲に茶話講義教育機關雜誌懇親會などにて政治殖產家族の發達を圖るといふ其勢今日愈盛也。

以上枚擧せしは世に聞えたる數々に過ぎず上には女子高等教育の爲に大學の門を開かしめ下には「フロエベル」俱樂部興りて貧民の爲に敎育の途を取り天下同胞を愛するの念より到る處に平和幸福を迎へて女子の本分を盡さんとにあるらめといふ。

叩扉

英國婦人禁酒會々頭
ヘンリー、サマーセット女史を訪ふ

英國婦人禁酒會々頭サマーセット女史は萬國婦人禁酒會副會長を兼れたり去年大會の折米國に遊びしが「ニユー、ヨーク」に着して程もなく「ボイス」通信記者女史を訪れて英國に於る禁酒事業につき其意見を叩きしものあれば譯して讀者に示す。女史は此春我國にも渡來せらるべき計畫なりと聞く。

通信子曰くいかなる機會より斯る事業を思ひ立ち給ひけむ。

女史曰く曾て身につける廣き地面のありて、そが地主小作人の氣風を改めんものと思ひ立ちしが、先だつものは亂酒の害とぞ知られにき、よりて之をとゞめしに其氣風いたく改まりぬ、おのれは此等の人々に禁酒を勸めしのみならず常にこの例をもて他のひと〴〵にも說き勸めけるが、蓋し禁酒の事業は殊に女子に適せりと覺ゆ。

通信子曰く英國の婦人は何を機關として禁酒の業をなしたまへる。

女史曰く萬國婦人基督敎徒禁酒會と關係ある英國婦人禁酒會といへるがそも也。其組織大方御地のものにひとし。昨年は新に英國女子青年部といふもの起りて。前途の多望と滿腔の熱心とにておのれらの事業を助け、ゆく〳〵は各女子大學校並に女學校におのれらの主義を述る集會の許可を見んことを願へり。おのれらは牧師に約して、毎月一回安息日學校に禁酒の說敎をなさしめんと思ひ、或は國民敎育の一端として「アルコール」の害を說かんことを志しぬ。

又おのれらの事業の異なれるものは、英國にて俗に「皐月の市」「霜月の市」といへるもの、惡弊を改めんとするにあり。此日は町々へ田舍の少男少女を傭ふの風にして、鄙の者都門の東西に漁りあふを常となす。もし醉飮放歌の一事なくば、樂しき「市」は英國のよき古風にてありなむ。されど曇り勝なる空に集會樓上の窓を仰ぎ見ば、少男少女醉歌して年に一度の「アルコール」に沈みくづるゝを嘆くべし。殊に近き頃、珈琲茶店の數を加へ、滊車の便ありて、渠等は早朝より都の門にむらがりぬるを思へば、總て社會改良は一時もゆるがせにすべき者ならじ。女子の奮ひ起つは今日ならずして何日か。風紀地に墜ちば又いづれの日にか之を廻り歸さなむ。己れらは社會改良を以て女子の事業、女子の責任

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とこそ覺えたれ。

通信子曰く、英國上流社會には痛飲の弊害もありや。

女史曰く酒社といふべきものはあらじ。七八年來飲酒の風漸く盛なれど、强酒を痛飲するは永くつゞくものにあらずといふこと、世に一般の説となれり。

通信子曰く、そは如何なる人の言ひ出しけむ。

女子曰く、飲酒の風を制するは、我國の醫士あづかりて力あり。禁酒會は甚だ英國貴族の間にいさほし少なく、反て勢力あるは醫士あるべし。

通信子曰く、醸酒禁止論の英國に行はれしこと如何に。

女史曰く、英國の前途を思ふ時は、醸酒禁止論の一時の贊論に止む可らざるを知らむ。されど、悉く「アルコール」を拂はんとせば、一個人としてもてる權利を奪ふが如く思ふもの少なからず。

通信子曰く、敢ておんみが醸酒禁止の説を聽かむ。

女史曰くおのれは今なせる事業を外になして、別に禁止の説を語らんこと難かり。もし人民が進歩せる教育に近きて自ら省るの時に非れば、主義として之を强んこと難きものか。

通信子曰く、教會は禁酒事業の爲に充分なる盡力をなすと思ひ給ふや。

女史曰く、「イングランド」にて「ノンコンホルミスト」派は、此道に熱けれど、「國教會は之に後るゝことはるかゝえ。

通信子是に於て、教會員の禁酒業に對する冷熱を語るに、女史大に慷慨嘆息し、諸人の義務を説きて時のたつるをぞしらざりける。

理學

○冬の空氣

吉田伸子

冬の空氣は夏の空氣と異りて濕氣を含むことが少なきものです。濕氣を含まぬ空氣は熱を導くことが極て難く先濕熱の不導躰と云ても差し支へなきものです。此不導躰の空氣は當時我等の生命を保續するのみならず冬に至りては外寒防護上に大なる便利を與へます。今其一例を擧ますれば夜具類の新に仕立し者は其綿の目方少きもふわ〳〵して餘程暖です。之に反して四五年前にこしらへしお煎餅の樣なる蒲團はごつ〳〵して着心悪しく温かでもありませむ。なぜこの樣に異るやと云ふに之れ全く其綿の中に多く空氣を含むと含まざるとに由て差ふのです。袷を一枚着るのと、單衣を二枚着るのとは、どちらが暖かでせうか、無論單衣二枚の方です。其理は前者は二枚の布が密着して其間に空氣の容る可き餘地がありませんが。後者は幾分か之を有する故です。其外夕方雨戸を立ると障子と戸の間にある空氣が寒氣の侵入を防ぎます、故にづッと温かになります。露國を始め北寒の地方にて二重三重に側壁を造りて寒氣を凌ぐも之と同じ理です。

○黒インキの造り方

硫酸鐵即ち綠礬を適宜の水に溶解し、之に單寧酸を入れ、水に溶けたる亞刺比亞護謨を入れ、よく攪拌して濾過し、空氣に露す時は、黒色を現はす、其分量は左の如し。

單寧酸、四グラム　硫酸鐵、二グラム

亞刺比亞護謨、二グラム　水、五十サンチメートル立方

文學

道德上に於けるシエクスピア

齡ひ四十に達らずんば、シエクスピアを讀味すると能はず。此は西洋人の懺悔なれど、亦た東洋人にも適當すべし。年若くして、たゞ其華やかなる所、其面白き所にのみ着眼せば、千古の珍書は過半其妙味を損失すべし。道念薄くして敬虔嚴肅の心根なき人は、シエクスピアを讀とも、たゞ其皮膚を窺がひ見るに異ならず、其奥深き心底に觸れ接せんと、到底望む可きに非ず。

シエクスピアが寫したる人物は万民なり、シエクスピアが演じたる舞台は宇宙なり、左れど彼に理想なしと云はんや、彼はフホルスタッフにあらず、ヘンレー五世なり、余は此點に於て「撫象子」と意見を同ふす。

ゲルビナスが、シエクスピアの註釋九百十頁に云く、人の心の中に神あり、シエクスピアは極めて明白に之を寫し出さんと欲せり、たとひ無道姦惡なる兇行者にして、自からは此心中の刺激を無みするときも、尙ほ此を存するよしを明白に證しせり、此心中の火花を消さず、且つ養なはんてふとは、彼が著はせし万巻の中の聲高き説教なりしと。シエクスピアの眞知己は、つねに此の類の評を爲すあり。

試みに、其もろ〱の作につきて、良心を詠じ、神威を歌ひたるものを摘まみ、彼が理想の何如に高傑ありしかを示さんと欲す。

余は神の大御手の中に立つ……（何んとなれば）、隱險なる
　言前に逆らひ、反逆なる惡意と戰かひて、固く立つがゆ
　えなり（マクベス、第二曲）。

余、余自身何をか懼るべき、わが外に何人もなし。リッチヤード、リッチヤードを愛す、余即はち余なるのみ。然るに尙ほ懼る、余の外に殺害者あるに因りて乎。否な、……然り、たゞ余あるのみ。然るに何ものを懼れて逃れんとす？。余自身を恐れて乎。然り、其の大ひなる理由なり。されど、其わけは何ぞ、余が余自身に復讐するを恐れてか。ナニ！、余自身が余自身の上に復讐すとか？。アー！、余は余を愛す。されど、そは何ゆへぞ、余が余自身の上に何事か好き事を爲せしゆへ乎。ヲー、否、否、余は寧ろ、余自身を怨めり、怨むべき所業を余自身の上に爲せしによりて怨めり。（キング、リッチヤード、三世第五曲）。

倦み果たる人世も、勞れ果てたる人世も、老も、痛心も、貧苦も、牢囚も、死を懼るゝ吾等が情に比べては、尙ほ樂園なり。（メジウア、ホー、メジユア、第三曲）

良心は千矛の如し（キング、リッチヤード三世第五曲）

正しかれ、懼るゝ勿れ、汝が期するあらゆる所望をして、汝が邦家の爲ならしめよ、神の爲ならしめよ、眞理の爲ならしめよ、斯て倘ほ倒れなば、ヲー、クロムエル、汝

は即はち祝福されたる義の爲め殉死者なり（キング、ヘンレー八世第三曲）

第一兇行者　吾等に賞を與へんとて、彼其金嚢を開かば、汝が良心は逃げ失するあらん。

第二兇行者　行かしめよ、安んぞ良心を好遇するものかあらん？。

第一　されど再び歸り來れるときは何如にする？。

第二　之に關はらぬやうにせん、危ふきものなるを。もし良心に關はりを有すれば、人は臆病となるなり。之に非難せらるゝがゆえ、盗むとも出來ず、之に制せらるゝがゆえ、盟ふとも出來ず、兎角人の心の中にて恥かしがりつゝ妨げを爲すなり、万事の故障のみするあり、余が見出たる金嚢を返させんなどと思はするなり、良心を有すれは皆な乞食となるべし、かゝる危ふきものゆへ、都よりも町よりも之を追出すべし。

第一　叱、（何如にして追出す？）、良心は今既に吾等が睫の前にあり！（リッチャード三世第一曲）

夫れ、シエクスピアは、輕薄弱志の輩が弄ぶべきものにあらず、彼は實に畏敬すべき理想家なり。

隨感

○日本國、人物上の趣味　みどり

日本人は頌揚せざる人種なり、何事か短所を見出して之を斥ぞけずんば措かず、之を斥ぞくるにも堂々として拮責痛擊するにはあらず、陰に嘲けつて之を落すなり。たま〳〵頌揚するときは、自己と利害の關係なき遠方の人もしくは己れよりは下位に立つ人もしくは亦既に死せし人に限り、なえて、同等輩、又は近く交はれる人の上に許さず。たゞ時あつて日本人の大評判を受るは、ゲーテゼー一流の僞英雄なるべし。顔色偉麗、風采堂々、身幹雄大ならんには更に好し、もし一二度の戰爭に勳功ありたらんには更にいよ〳〵好し。

○理想的敎育　かすみ

蓋し理想的敎育とは（例へば今日アリストートル、プラトの學舍を想像したらんが如く）幾多の學生が極て智識を慕ふの餘り、日夜さる大先生に昵近きて、知らざるを問ひ、問るゝに答へ、遂に先生が敎導の精神の髓處に達りて、其思想の方法を了得し、更に其おもんばかりを規矩準繩となして、天の「インスピ

レーション」に感觸し、斯て自由に其學び得たる所を以て各自の目途に赴きつ、先生をして再び其敎えんとする前に思慮觀察經驗作述の餘地を得しむるにあるをいふ是に於てか創作的の人物ありて、先づ人を導んとするに、是が弟子たらんと庶ふものは、義務といへる感情又は眞理なる大女神の本相を觀んとする道念によりてこそ、東より西より南より北より、各自其不同の性質を發達せしめんと、互に來り聚るなれ。是、今日に行ひ難き所なれども、理想的敎育の一端として見るべし。

「フレデリック、ハリソン」

批評

國民之友新年附錄　雲峯生

巨八石

是實に麗水氏が意匠を凝し、つとめて奇を畫き、新を寫さんとせし一篇ならんか、然り眞に奇なり新なり、然れども新奇なるもの必らずしも妙文妙字ならず、蓋し新奇の事物多少意味を有せずんば、即ち一々活動せずんば新奇を出すの功なし連絡もなき變幻奇事を記せんと欲せば何人も無數の材料を立ろに得べし、庭上の石礎を發せり、屋後の山此處より彼處に移れり、古寺墓畔に幽靈現出せりと云ふも皆是奇妙ならずや、今巨八石を見るに篇中の出來事奇は則奇あり、妙は則妙なり、然れども只奇妙なるに止りて連絡を欠き、爲めに意味なく力なきものあるか、切に之を云へば昨夏抱一庵氏の曇天と等しく此篇は意を凝し過ぎたるなり、新奇變妙の意匠充分に功を奏せざることそ遺憾なれ。

さは云へ文章に於て、婉麗優美、たしかに麗水氏の伎倆表はれたり、篇首の數節、第三段の末節の如き其好例なるべし、此篇は意匠に於ては稱すべからず、文章大に見るべし。ことく〳〵しく云ふべき程ならねどてにはの誤り多きは少しく目立つ心地す、虎威を恐れず一言す。

懷舊

本篇は意匠に於て云ふべき所なし、蓋し譯者の負ふべき責めなければなり、只譯文の何如を云ふべきのみ、然れども思軒氏の文既に公許の定れるものあり、余は只其言をくりかへして評語に換ふべきのみ、即ち巧妙周到よく原文の意を譯出せられしと、氏が篇首に云はれし如く今回の譯文は多少先のも

のに異るが如し、然れども功妙周到なるは即ち同じ。
偖一二の不服を強て云はん、一は文氣の一層强からん事あり原文の意を傳ふるに全力を盡さるゝ故か間々形容詞の重復するあり、或は耳なれぬ動詞ありて充分の感情を與へざるが如き箇所あり、是今度始めて知り得たるに非ず、嘗て氏の譯文を見て思ひつきし事、今折を得たれば一言す、氏の學、氏の筆もとより凡庸ならず、つとめ給ふあらば更らに吾等讀者をして妙味を知らしむるを得ん、余が此言は深く氏を敬尊するの意より出づるのみ、尙一は琴歌を漢譯にせられし事なり、未だ日本詩の發達せざるが故か、若從來の七五調を以て譯するも日本の琴に合せてうたひ得べし、左すれば人をして感動せしむる事漢譯の比に非ざるべし、余は遺憾に思ふ。妄言。

霜　柱

近松を崇拜し、院本を愛讀せらるゝの故か、大に似よりたる所あるが如し、上段初十行、中段初十數行の如きは何人か見るも院本より脫出し來れるを知らん、然れども余は院本めけるが故に不可なりと云はず、否寧ろ院本をよく學ばれし功妙を讚稱するものあり、而て尙愈進みて氏か當代の近松たらん事を希望して止まず。

篁村氏の伎倆は正しく腐を化して新となすにあり、此篇の意匠果して何事ぞ、平々凡々世にありふれたる事のみ、何人も容易に案じ得べき事なり、一點も新奇なる所あるを見ず、實に此點は巨八石と正反對なり、然れども氏が輕奔逸妙の筆を以て寫さるゝを讀めば實に讀了して短きを惜む、篇中に充滿する妙味は何處とも云はれぬ內に存す、下宿屋の狀を寫すが如き何ぞよく神に迫る事斯の如きや、斯種は是萬人常に見聞する所、而して氏獨り巧みに寫さるゝ所。

然れども廣告の文字誇大なりしが爲めか、氏の作としては少しくもの足らぬ心地す、恐くは氏が伎倆尙此外に存せん、惜げもなく注き出されし力とは見ず。

○小說評註　撫象子

正直正太夫氏の「小說評註」は罵嘲を極めて而も惡からず、巧みに他の短所を穿ちて抱腹絕倒せしむ。左れど、此はたゞ弄玩の事にあらず、被評者その人の三省に益する所ろ多かるべし。

○油地獄　同

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前に小說評注を掲げて、后に自作の小說を添たるとゆへ、其自信する所ろの厚きや知るべし。放蕩男子を寫す尋常の戯作と異なり、全篇の觀念に見るべきものあり。一道の氣骨之に徹して、讀者を喜ばすものなきにあらず。亦是れ一種の露伴子にして、平凡常套の小說家とは云ふ可らず。

○英雄經を讀みて

川合信水

眞面目の著述　英雄經は羅馬の該撒が傳記なり、現今茶かしたる如き心より著述する者の多き中、此著は眞面目の心より出でたり、たゞ其評論の所謂「引負の引き倒し」となるもの多きは、該撒の爲め、著者の爲め、誠に惜むべきなり。

彼の事業豈其智畧のみにて成らんや　德に伴はざるの智は、眞の成功を來すものにあらず、僞英雄の成功するは、其僞りの智略に由るにあらずして、其中にある幾分かの眞實、德義の力に由るあり、　著者未だ此に氣附かざるや、餘りに該撒の意中を臆測して、凡ての所爲を其智略に歸するの傾きあり。

何をか崇拜する　著者曰く「我が該撒」と、其崇拜するとの深き、以て推すべし、然れども著者何をか崇拜する、曰くたゞ彼が雄才大略、多能多技を崇拜するのみ、嗚呼該撒の人物、果して著者の評する所の如きか、果して著者の論ずる所に止るか、記せよ著者、才といひ、略といひ、能といひ、技といふ、皆彼れの附屬物のみ、彼自身にはあらざるあり、現今小該撒を氣取りて、手に唾して功名富貴を取らんとする者多き中、何の必要ありてか該撒を崇拜するとを勸むべき、余は彼れの偉大を愛す、彼れの剛强不屈を愛す、其他は寧ろ憐むべき人物として之を吊ふ者なり、著者口を極めて「上は世界創造の時より下は其泯滅の時に至るまで(中略)我戎麗該撒の如き者焉くんぞ又得べけんや是れ實に造物主が吾人々類の規矩準繩として與へ示したる者にして世界人類の最も雄大なる紀念碑なり」と獨り感じ獨り賞るも、吾人如何んぞ之に感心するとを得ん。

名と利　功名富貴は取らんと欲して取るべき者にあらず、滔々たる俗輩、之を取らんと欲して却て失望落膽する者多きにあらずや、たゞ寸毫も名利の念なく、一意道の爲めに進む者には、眞正の名利其人に尾す。

英雄經の文章　華麗に過ぐると雖も、以て讀むに堪へたり、思ふに今現市塲に紛々たる木葉小說を讀むよりは、此類の書を讀むと遙かに優れりとす。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○審勢

大勢既に明々白々となれり、總選擧の結果知るべき耳。今に於て腐れたる繩を繫ぎ朽たる屋を補ふの料となるは、愚にあらずんば迂なり。或ひは一身を獻げて、明治政府の文天祥たらんとするか、須らく堂々名乘り出で公けに敗北すべし。歌をうたはざるは文天祥にあらず。

○第三期議會を預想す

第三期議會に出づべき議員は最早過半民黨なることを知る。故に第三期の大勢も略ぼ今日より推想することを得べし。他日再たび政府と衝突することあらば如何ん、政府は最早や重ねて之を解散す可らず、亦解散することあらざるべし。此時に於て現政府に代るものは、今の黑幕者もしくは樞密院近邊の人なるべし。斯の如きやりくりは何の役にも立ず、たゞ表面上の申譯に過ぎざるなり。吾人は先づ今より之を掣肘するの準備を爲さずんばある可らず。

○宮内大臣

今后、政府と民黨との爭ひ知るべきのみ。此時に於て、宮内大臣に其人を得ると得ざるとは、邦家十年の機を決するに大關係あらんとす。若夫れ、樞密院議長の如きは、必竟同穴の人に過ぎず。

○辭職す可らず

政府、人民が撰擧したる議員を無效了し去る。苟くも人民の委託を重ずるものは、此際、之に復命して第二期議會中に於る責任を擔ひ、以て其意向志望を質さざる可らず。而して人民亦可なりと云はゞ、更に重撰を荷ふて再たび議場に出席せざる可らず。之によりて政府と人民との勝敗を斷ずるなり。たとひ心中樂しからざることありとも、解散の節重撰を辭せざるは即はち議員の責任なり、人民に對するの義務なり。第二期議會は半途解散せられたり、其生命は正に半死半生の運に中す、既に之に列したるものは可成く重撰せられて前回の經過を續けざる可らず。若し夫れ前期に於る言行にして誤まれりとせば、今期に其過を償ふべし、前期に於る言行にして誤まらずとせば、今期に於て其信ずる所ろを伸さゞる可らず。議員は必意解散后に自から辭す可らざるものなりとす。

寄書

絶叫天下の同胞に訴ふ

明治二十四年十月廿八日雞鳴晨を告ぐるの時轟然天地震動山嶽崩壊須臾にして火焰所々に起り黑烟晴空を覆ふ時に幾百千の生靈を壓殺し幾千万の家屋を破擢す中に就て我が濃國其慘害を蒙むる最も甚たし當時天下の人異口同音舌あるものは悲しみ言に溢れ筆あるものは紙涙上に濺らす此時に當り仁腸義俠の士數万の金品を喜捨寄捐せられて此哀むべきの同胞を賑恤せられたり吾曹天父の恩寵に浴するの幸ひ難を遁るゝとを得爾來勇奮快鞅掌事に從ふ茲に七十有餘日東奔西走身自から悲境に臨み親しく慘域を目擊し以て漸く我が縣下を巡視探撿し義捐の金品を施與分配し盡したり歸りて靜坐潜心既往を回顧せば今日猶滿天下の同胞に救を求むべきもの實に少なからさるを感ず故に吾曹一身全く救濟の爲めに献牲し疾呼義人の心腸に訴ふ。

當縣下の戸數十五万九千九百七十八口八十一万五千一百四内全潰五万四百六十五半潰三万三千五百九十三全燒四千四百七十五戸死亡四千九百五十七負傷者一万四千四百四十七(明治二十四年十二月廿日岐阜縣廳の調査による)。

我が岐阜縣罹災窮民の救助を要するもの大略此の如く夫れ多し吾曹此窮民を救濟賑恤せんが爲め始め名古屋基督教徒と聯合働を共にし有無相通ぜんとを盟約し愛知縣には名古屋に當縣下には大垣及ひ岐阜に事務所を設置したり然るに大垣名古屋間の鐵路毀害の爲めに全く不通となり貨物の運搬忽ち其便絶ゆ思ふに關西の義捐諸君は多く大垣に關東の寄送金品は大半名古屋に向て運送せられたるなるべし夫れ或は然らん我事務所殊に委員を派遣して懇請幾回衣類雜品三十包は大垣より三十六包鹽二十七俵金六百十五圓は名古屋事務所にて請取りたり猶當地在留英國宣教師チヤツペル氏に宛て寄送せるもの丶巾衣類數十包金八百廿圓而して直接我が事務所に寄送せられし金品は衣類二十六包金七十四圓九十四錢總計衣類百數包金千五百五十九圓四十九錢之れ全く我が事務所最初より入手せし全額なりとす此金品を以て一市五ヶ町五十有餘村及ひ病院數ヶ所を救助せり然るに今日猶天下に叫んで義捐金品を募集するもの他にあらず乞ふ其所以を陳述せん。

彼の根尾谷は震原たるの故を以て疾く天下の人注目する處となり義捐金品多く茲に注集せりと雖とも今日飢寒叫ぶもの少なからずとす。

殊に根尾谷の西方一帶の山脈を隔てゝ溪谷あり北山筋と稱す村落十五人口凡そ八千餘根尾谷と同時に劇震し山嶽の崩壞道路消失夬して根尾谷に劣らず山民食物を採るの途絶へたり依りて大根葉蕪冬芋葉等を煮沸し粉糠及ひ鹽少許を散布加味して飢を凌ぐと數十日漸やく昨十二月中はに至りて其被害の慘劇たると世上に顯れたり其後官報の達するや道路開鑿に着手し備荒貯金を以て米鹽各百俵を輸送し其急を救へり然れとも自から制限あり超過すべからず故に吾曹立ちて世の慈善家に訴へ救助を願はさるを得す。

猶豊木村と稱す處チブス病流行し患者百有餘名大に苦む吾事務所殊に醫師三澤猷二郎看護夫水谷虎之助兩名を派遣して專ら治療に盡力すれとも現今病勢依然退縮せす是れ亦吾曹救濟せさるべからざるの必要を感ず。

此他罹災者は從來多少の救助金品を受けたりと雖とも今日に至りて家なく衣なく又食なきもの擧けて算ふべからず吾曹立ちて大に救恤せざるべからざるの必要を感ず又夫れ地一度ひ震ひし後何れの山岳耕田も土質變して鬆疎となり降雨の際降雪の時水土中に浸入して斜面を流下せば泥土と共に崩壞して河心を塞き通路を埋沒す頃日降雪數回國の北部地方は積んで尺餘に及ひ道路爲めに隱沒し通行爲めに閉塞す而して南部稍暖なるの地方も猶數寸に及ぶ此後寒氣威を逞しふせば罹災の窮民其情夫れ如何に察するに餘ありと云ふべし。

嗚呼我が岐阜縣の如き一朝に家財を蕩盡し一轉瞬下身負傷して不具となり咄嗟赤貧窮乏に陷りしもの比々皆然り一片の破板屋宇を蔽ひ數葉の席壁圖を擁ふ兩雪時々犯し來りて濕氣床上に浸入す一碗三人に用ひ一鍋三戸を支ゆるもの今日に至るも猶數千人嗚呼慘狀此窮誠に哀むべく憐むべし然りと雖とも之れ猶忍ぶべし其求むるに食なく纒ふに衣なきものに至りては吾曹如何ぞ袖手傍觀して飢餓凍死を坐視するに忍びんや吾曹茲に至りて情迫り辭窮す書する處を知らず奮つて絶叫天下の同胞に訴ふ。

附言縣下に鰥寡孤獨のもの五百餘名縣廳より之れを救養す名づけて救育所と云ふ其數十二ヶ所設置せり其期來二月限り之れを引拂ふと云ふ吾曹其後を引受けるを以て最も良計なりと信す吾曹此事に就て多少の考案なきにあらずと雖とも今日餘裕なし少しく閑を得考案熟せば更に世に公にせん差當りて彼の北山筋の如き豐木の如き其他各所の究民の如き目下實に焦眉の急吾曹委員此急の急なるものを救濟し死に瀕するものをして回生せしめんとを熱願す故に名古屋事務所は近日中に結了閉會せらるゝ由なれとも我が事務所は中々閉づること能はす重々賑救すべきの必要を感ず仰ぎ願くは慈善家諸君既に許多の金品を惠投せられたれとも窮民の情を洞案憐憫して猶多少の義捐せられんとを千萬悃願する處也。

今後義捐せらるゝ金品は當事務所宛てにて御送り被下度候

岐阜市朝日町
基督教徒設立救濟委員

明治廿五年一月十五日

南小柿洲吾
市來敬太郎
森卷耳
富永亨

女報

あい子編

●御歌會始　去十八日御歌會の御製は左の如し、

御製　日出山

やまのはにかゝれる雲もはれそめてのほるあさ日のかけのさやけさ

皇后宮御歌

いはさあけしかみよおほえて山のはをいつるあさ日のかけそまはゆき

●皇后陛下の御美德　宮中顧問官山尾子爵の令夫人種子(三十六年)は、昨年十一月下旬男子を分娩せし後氣分すぐれず、日を逐ふて重患となりしに、畏くも皇后陛下より十二月十六日御見舞として、女官を差遣はされ尚御菓子を下賜はりしが、去る九日陛下は香川太夫を召させ給ひ、山尾種子の平素嗜好せる物品を購求し遣はすべしとて、目録金百圓を下賜せられたり、種子夫人は病苦を忘れ涙に咽びて拜受し奉りたりとなん。

◎西鄕伯の榮譽　同伯令息從德氏が此程沼津にて遊獵中、圖らず同行者の散彈に當り負傷するや、畏くも皇后陛下の聞召す所となり、早速女官もて容体を御下問あらせられ、又先頃は御見舞として結構なる文房具一揃と、御菓子とを下賜せられたるにぞ、伯夫婦には　陛下の御仁慈遍優なるに恐入り感涙を催ほしたりとぞ。

◎富美宮殿下　皇女富美宮殿下は去十二日午後一時三十分頃、林御養育掛並びに御守女等數名附添ひ奉り、御馬車にて御年賀として宮城へ成らせられ、御對顏の上同三時三十分頃還御遊ばされたり。

●皇女御年賀の爲め參內　皇女常宮、周宮兩殿下は、去十三日午後一時、年賀の爲め宮城へ參內、兩陛下へ御對顏の上同二時過ぎ還啓あらせられたり。

●貴婦人參內　去十四日は貴婦人參內の定日なるを以て、各大臣夫人令孃其他貴婦人は午前より續々參內したり。

●角田氏妻女の周旋　今回の衆議院議員撰擧に付き、角田眞平氏が神田區に於て、表面に裏面に其運動に力を盡し居れるは何人も知れる所なるが、先日同氏の妻女、及び島田三郎氏主人となり、同區內の撰擧人を同區今金樓に招待したるが、角田氏の妻女は周旋最も力めたりと申す。

●製作品奉呈　共立女子職業學校に於ては、此程畏くも天皇陛下の御膝元へ其製作品を差出すべき御沙汰を受けたるが、冥加至極に思ひ昨今右奉呈の準備中也。

●嫁入道具の賣捌けよし　本年は農家の豐作なる故、娘を持ちし家々にては嫁入の相談整ふもの多く、田舍商人は諸道具買出しに出京するを以て、昨今箪笥其他重れ摸様杯の衣類相應に賣行き好し、又た府下にては昨今立派の家を一時借受け諸道具類等も美麗に飾り、一寸金滿家と見せて先方のボンヤリした金持の娘へ手裏をかけ、追々兩親を瞞着して金錢を借り出すといふ惡むべき流行なる哉。

●結婚媒妁所の統計　日本橋區檜物町なる渡邊結婚媒妁所にては、昨年中依賴者の需に應じて周旋したる統計は、男方總計八百七十名、內譯嫁五百名、聟二百八十名、小兒九十名、又女方總計六百六十名、內譯嫁四百九十五名、聟百廿名、小兒四十名なり。

●內外人結婚數　昨年中神奈川縣廳に於て、內外人結婚の事を取扱ひたる件數を聞くに內國人にて淸國人に嫁せしもの二人、米國人に嫁せしもの二人、英國人和蘭國人澳國人に嫁せしもの各一人、獨乙國に嫁せんとを出願したれども國籍不明の爲め許可を受るに至らざりしもの一人、英國人にて內國婦人婿養子となりたるもの一人、獨國人にして內國婦人へ入夫たらんとを出願し許可せられざりしもの一人、米國人に嫁せんとを出願し後却下を願出たるもの一人、淸國人に嫁せんとを出願し後取消を願出でたるもの一人なりと。

●入學試驗　山梨縣尋常師範學校附屬小學校訓導小田切うらの子は、今回高等師範學校入學試驗を出願せしに付、同縣總會議室に於て該試驗を執行せりと。

●山梨縣尋常師範學校卒業の女生　本學年末卽ち來る三月限りに、山梨縣師範學校を卒業する女生徒は十二名なりと。

●山梨禁酒會　同縣下中巨摩郡明穗村の基督敎信徒勝格[illegible]氏發起にて、山梨禁酒會を設立せり。

●其心掛殊勝なり　岐阜縣安八郡加賀野村後藤ふさ(三十四年)は、以前は相當の家なりしに、不幸に不幸を重れ、今は見る影もなく貧困に陷り、村税免除せらるる程にて、長男の長作(八年)と二人農作の餘暇に日雇などなし、纔かに其日を暮すものなるが、此度の震災に雨露を凌ぐまでと賴みたる住家も、叩き潰したるが如く崩壞し、歎きの內にも氣を勵まし、漸くに潰れたる儘膝を容るべき丈けの住居を設け、以前に替はらず農作に日雇に立働き居ることなるが、爰に感ずべきは食料なり小屋掛料なり、或は四方の慈善家より寄贈せられたる義捐の金穀を、區長より配分せらるゝときは、二圓三圓の大金を女の手元に置くは誠に不用心にて心元なく、又手元にあれば自然に消費し易く、今貧困なりと雖も無病にして立働く間は、雇はれ先にて食物を戴くとでもあれば、病氣等に罹りたる時の爲め、又他日如何樣なるものにても建つるまでは、強て預り吳れよとて一切預け金にし置き、又義捐の金品は其都度義捐せられし人の住所姓名を聞き、其の人の地方に向ひ拜して謝禮を述ぶると云ふ、特に感ずべきは過日恩賜金十五錢を分配するに際し、區長後藤佐太郎氏は震災に付下附せらるゝ金品は何れも有難きとなれども、此の恩賜金と云ふは恐れ多くも天子樣が我々の難澁を深く悼ませられ、最初は三千圓を下されたるも、我々の難澁は一層甚しきとて御憐愍の餘り、又更に一萬圓を下されたるものなれば、大切に奉戴せらるべしと、皇恩の忝なきを說示せしに、ふさ女は感涙に咽び、何に思ひけん今日は一時下渡されたしと持かへり、祖先の位牌に香華を供へ、前の十五錢を白紙に包み、其中央に敬々しく供へたる上にて、區長より聞得たるとの有難さを恰も生たる人に語るが如く靈前に述べ、且此金は永く保ちて失はざるべしとて、再び包みたる儘區長の許へ預けたりと云ふ往々不心

得のもの〻多き世にふさ女の如きは實に感賞すべきとなり。（岐阜日々新聞）。

●藝妓に係る取締法に就て　大阪府に於て新に藝妓に係る取締法を設け、來る四月一日より、藝妓は必ず貸座敷免許地内に住居し、外泊せんさするときは警察署又は巡査派出所に屆出でざるべからざることゝなりたり、之に就き從來免許地外に住せる町藝妓の忽ち困難を感ずるは素より各遊廓に於ても種々の都合あれば、右の事に就て協議を爲し、同法施行の延期を出願せんさ云ひ居る向もある由。

●婦人會　福岡縣宗像郡上西郷本木畦町の兩部落内十五歳以上未婚の女子は、風儀を改良し品行を高尚にするの目的を以て去る四日婦人會を開けり、會するもの五十餘名にて、二三の祝辭演説等あり、畢りて日常必要の技藝を練習したりさ云ふ、尚ほ同村長及村内二三ヶ寺の住職學校教員等、大に盡力して此發達を計るさなり。

●藝娼妓出願數　昨年二月一日より同十二月末迄に、福岡市柳町より藝娼妓營業出願したるは都合百四十二人にして、此前借金九千七百三十九圓廿四錢、手數料三百五十七圓廿四錢なりさ。

●越後高城の縫箔業　越後國中頸城郡高城村に竹越虎雄氏が設立せる女工場の輸出向縫箔は、追々女工の熟練さ共に業務發達せるより、同地方有志者は之に協同して更に實業を擴張することに決したる由。

●高田町の娼妓さ藝妓　高田町の娼樓即ち横區の貸坐敷に現在出稼し居る娼妓の員數は百二十三名にして、昨年一月の調査によれば拾壹名增加の由、又藝妓の惣數は田端區十六名横區二十五人總數四十二名にて、昨年一月の調査より拾名增加の由。

●德島崇德婦人會　德島縣下の同會は例の如く去十二日午后一時より富田濱測本願寺出張所に於て開會し會員をして讀書、詠歌、挿花、押繪、毛糸細工等をなさしめ、且つ之を花々しく飾り付け廣く衆庶の縱覽に供せりさ。

●熊本女學校　熊本英學校さ同列なる熊本女學校は、去十三日開校式を行ひ、同校關係の諸婦人諸演説祝文あり、藏原校長答辭を陳べ了りて、赤飯を來賓に供したり。

●秋田婦人學會の開會　去十日同會は本年の初會式並に常集會を同市明德小學校内に於て開きぬ、當日出席の會員は無慮八十名ありしさ。

●婦人談話會　北海道膽振國勇拂郡苫生村婦人談話會は、本月五日開會し、會長水嶋さき女（積金の要め）水嶋ちか（女小兒の育方）小嶋さき女　節儉の方法）瀧谷みゑ女（省間費を衣料にせし話）松澤つた女（言行は可愼もの）川上いよ女（老者を悲む）西村しげ女（貞節は婦の義務）山口まさ女（編ものに就て）川北いそ女（裁縫の學び方）等の談話あり、目下同會の積金は百六十二圓にて來月は滿會に付夫々配金の筈なりさ云ふ。

●山梨縣通信　●震災孤兒義捐慈善音業幻燈會の集金額

切符賣上金	百〇四圓九十五	收入
寄附金	二十圓九十五錢	
合計	百二十五圓九十	
音樂師其他へ謝禮	十五圓	支出
新聞紙廣告料及切符等	十圓五十錢	
會場入費等	六圓八十三錢	
諸雜費	三圓十五錢	
合計	三十五圓四十八錢	
差引殘高	九十圓四十二錢	

此は發起人協議の上にて貴社に御依賴致し東京孤女院（大須賀氏の）幷に岡山孤兒院（石井氏の）二ヶ所へ切半して寄送する事さ相成り候に付近日さし出し候に付乍御手數御周旋被下度願上候さして弊社に申越さる。

●靜岡縣通信　●靜岡製絲會社の工女に、積寸慈善會てふものを起し貸銀の年分を積み立て義捐をなせり、岐愛震災にも義捐し今回市街の災にも義捐したり。

●靜岡師範學校女子部は去る八日始業式を施行したり。

●美以教靜岡教會堂は去る九日の大火に類燒せり。

●滋賀縣通信　●近江婦人慈善會は舊臘十九日其納會を大津町近松別院に開き、赤松連城氏の講話ありしが、新年に入りて去る七日午後一時より新年會を兼て其初會を同町商法會議所に催し、渥美契緣氏京都より來會して一場の演説をなし、且昨年に於る會計上の報告あり、更に會員の寄贈に係る福引音曲挿花抹茶等の催あり、會長大越知事夫人より來會者へ紅白二色の饅頭を饗しいさ盛會なりし、同會は豫て質素を旨さするを以て酒食の如きは一切之を用ゐざることさなりさいふ、吾人は此會が名の如く大に慈善的運動をなさんとを切望す。

●普通免許狀　縣下長濱高等小學訓導三好稻子は、此程文部大臣より普通免許狀を領したり。

●女醫　縣下高島郡寺久保村の釆畢ふさへ女は東京順天堂に於て醫學を修め、歸鄉後今の所に醫術開業し、二三の女書生をも置きて斯道に從事せり、縣下此外に女醫なからん。

●神戸通信　●三田の婦女子さ基督教役者　三田藩の婦女子にして基督教々役者の妻君さなれる者十一名あり、兵庫教會牧師村上俊志氏夫人、多聞教會牧師長田時行氏夫人、番町教會牧師原田助氏夫人、天滿教會牧師三宅荒毅氏夫人、平安教會牧師不和唯次郎氏夫人、今治教會牧師山中百氏夫人、高知教會牧師杉浦義一郎氏夫人、傳道師奥龜太郎氏夫人、同山田丘助氏夫人、同上野松三郎氏夫人、同久保田榮氏夫人、即是也。

●德嶋縣通信　●德島縣女子師範校は明治廿二年設置せしものにして、目下生徒僅かに三十名なり、併し漸次隆盛の萌あり、本年知事選擧にて右三十名の内より二名東京女子高等師範學校へ入校せしめんさて本月十二、十三兩日は右二名の試驗を施行する由、受驗人は片山及坪内の兩孃なりさ。

●正則英語學校の女子部には、今回、ミス、ロバートソン嬢來られ、傳道の傍ら學校を助けらる、目下生徒僅かに十名内外なりさ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●ヴイクトル親王の薨去に就き　倫敦發（一月十五日）アルボルトヴイクトル親王の薨去に就き一般人民並に諸新聞紙皆哀悼を表せり、女皇陛下は痛く悲まれ、母君なるウエルス皇女は全く力を落し、ヴイクトル親王と婚約の方の悲痛は慰め難き有樣なり、國葬式はウインドソル宮セントジョルヂの禮拜堂にて行はるべし。

●愛蘭自治黨パーチル未亡人を訴へんとす　愛蘭自治黨は、曩きにパーチル、マツカーシ兩氏の名義を以て巴里資金と名け、金四万磅を巴里の某銀行に預け運動費の豫備となし置きたるが、パーチル氏逝きて以來事實湮滅に歸することを憂へ、近々マツカーシー氏及パーチル氏の相續人たるべき未亡人に係り、訴訟を提起して右資金の自治黨に屬するものなることを明にし、兩氏の名義は單に信託人に過ぎざることを確むる由。

●歷史的舞蹈會の老美人逝けり　ウオートルロー決戰の前夜ブルツセル府に於て有名の舞蹈會あり、ウエルリントン公爵以下皆盛服して此の舞蹈會に臨みて、翌朝戰塲さして出陣の門出を祝したり、故に此の舞蹈會はウオートルローの決戰と共に歷史上に特筆大書せらるゝ一大事實なり、而して此舞蹈會に列して舞踏せし者の一人にド、ロー夫人てふ貴女あり、此の貴女昨年十二月十八日を以て永眠に就く抑ゝ此の夫人こそ有名なる此の大舞蹈會に驚鴻の影を弄せし最後の人物にて、殊に夫人の死を以て此舞蹈會を見たる者最早一人を殘さゞるに至りしは、いと惜むべき限りにこそ。

●女記者の死去　（十二月十二日、ボストン發電）世界婦人禁酒會の機關なるユニオンシグナル記者ミス、ジュリヤ、エ、アメス孃は、今朝當地のホームテシク病院に於て永眠されたり。

●万國平和協會　ホツヂソンプラット氏がエコー新聞に寄せたる書によらば同會は過日羅馬に其例會を開き左の如き問題に對し衆說を一決せりと、そは是迄少數の博愛家が熱心も同志協力者の少なきが爲め彼の第十四世紀の基督敎徒が數代を超へて其望を遂せし如く何事も容易ならぬと等しく戰爭は或人々が此かる事を全廢すべしと叫ぶの批難程恐しき者にあらず一千八百六十年に以太利に獨立せしめし戰爭、一千八百六十一年より同六十五年迄の間の米國戰爭等實例なり、戰爭は人生に假すと云ふされど生者必滅てふ事あり加ふるに此の爲め死せしものは當今歐米を通し一週間內の死者總計に超ゆるを少なし而して彼傷は猖獗なる熱病の數日にして苦しみ死するが如きとは比ぶべくもなし故に戰爭は時として利益あるものと云はざるを得ず此く云へりとて之を勵すの恐なきは人民が一般に之を惡むの甚敷且常に之を斥けんと同會が勉むるに依て却て不斷なる不和の爭鬪を減じたる事多きを以ても明也。

●龍動學務會　は晩近の撰擧により名ある會員を得たり即相一對とも云べきロルドサンドホイスト及ロルドコルチエスターの二氏なりき其他メイトランド孃はメリーレボン撰擧區にて敗北し之に反しインスペリなるイーブ孃當撰入會せり。

女學雜誌社取次書目

金森通倫君著	日本現在及將來之基督敎	一冊	價	二十錢
池袋淸風君著	淺瀨の波	二冊	同	三十錢
花房庸夫君著	明治女大學	一冊	同	二十錢
松田敏足君著	女小學躾草	二冊	同	四十錢
吉田利行君著	日本女子讀本	三冊	同	三十九錢
香月恕潔君著	女子文例	一冊	同	二十五錢
安東松次郎君著	貧兒の敎育	一冊	同	六錢
湘煙女史君著	善惡之岐	一冊	同	三十五錢
安枝武雄君編輯	正義の反響	一冊	同	十五錢
鈴木弘恭大人著	作文口授	一冊	同	二十八錢
三島通良君著	母のつとめ	二冊	同	七十錢
新倉錠次郎君編	國文自在	一冊	同	四十錢
坪谷善四郎君著	日本女禮式	一冊	同	五十錢
木村駿吉君著	新編物理學	一冊	同	六十五錢
元良勇治郎君著	心理學	一冊	同	七十錢
鈴木弘恭大人著	國文抄	續出	同	三十錢
三上參次高津鍬三郎君著	日本文學史	二冊	同	一圓六十錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

震地傳道隊報告

婦人矯風會錄

第十二報

大垣の公開演説も畢り、人氣活潑なる北方町にても演説す注意熱聽するもの多し。笠松に禁酒會發會式を催ふさんとす。

一月八日午前谷清氏來て門を叩く氏は前號に言へるが如く今尾町の東北十町はかり隔たりたる佛師川村の土豪にして自由黨員也昨日茲を過ぎり一隊を請招せしか今日更に導ありて町に出て労當夜の來聽を請はれたる也是夜約に從ひ一隊は該村に至る朝來の寒風尚ほ未た止まず行く／＼雪片の飛ふに遇ふ

是夜故ありて來聽するもの四十餘名に出でさりしか皆な此地方の有志者にして譯の分りたる仲間なりしといふ且谷氏は常に數々青年を集め演説會を開くよしなるか是夜も多くは其會員也しに昨夜今尾町の終りの演説會に偶然立ち寄りて終席の松田君の良心の自由説に感じたりとて蛇池村より半里の路を犯して佐久間光次なる一青年來聽せり氏も自由主義の人にて該村の土豪自由黨員佐久間國三郎氏の從弟也といふ此青年は實に感心の人にして我願ふ所の善は之を行はず反て願はざる所の惡は之を行へり我善を行はんと欲ふ時に惡の我に居る此一の法あるを覺ゆ噫われ苦める人なる哉この死の體より我を救はんものは誰ぞやと常に嘆じ且つ慨するの人也故に佛教を探究したること二星霜然れども得て心に滿たしたること空の空なりき徒の徒なりき斷然之を辭ら更に天を仰ぎて嘆又嘆遂に我教に來り既に心に得んとする所あるが如し然れども是れ主イエスキリストなるが故に神に感謝すといい釋然たる新天新地は未だ氏の心に來らず氏は分袂するに臨みて言へり是日演説會場にて自ら研究し得たるキリスト教の眞理と自ら進み得たる信仰の點を陳述したり尚ほ次回にも更に得たる所を語り際すべしと吾儕は氏がイエスキリストの何者たるを知るに至らんことを勸告したり願くは氏の釋然掌を拍て

浮雲は麓のかたにわけすてゝ
はれし高嶺の月を見るかな

と皇天に向つて歌はんことを

今尾より向大垣

一月九日土曜日昨夜近邊の選擧皆な雪を蹴ひ來り朔風更に凜冽を加へたり午前九時我隊は今尾町と分袂して舊知の大垣に向ふ此間四里是日隊員寒威に犯かされたれは直に公會を開くことを得ざりしは遺憾なりき

玉生國子東歸

十二月上旬より大垣病院に來り看護婦の勞を操りたる國子は一月十日を以て東京に歸られたり其介抱を受けたる患者は皆な流涕して惜しみたりとなん

大垣の公會第一回

豫て劇場を借りて開會せんとの計畫もありしかど市人を會堂に導く慣習を成すかた宜しかるべしとて遂に本町の講義所に決し同内の空地に大幕を張りて聽衆に備へ中央に焚火をおこし隊旗を頭に飾へしたり日に一月十日第二安息日是日朝來亦寒風雪霏々夜に入り稍靜にと思ひしに時に至り七十餘名靜聽す會終て小册子を頒つ

第二回

翌十一日夜にも亦七八十名例の如く靜肅に聽聞す終て小册子を頒ちたり是夜自助會(貧民救濟會)宮崎利道氏助け贊す

第三回

は實に我隊が大垣に於ける最後の戰爭日なりとす然るに是日強風砂を捲き家を覆ひ夜に至り聽衆如何あらんと思ひしが尚ほ六七十名は場に滿つ松田君先づ起て聖書を朗讀し終り說き來る未た十分を出でず警鐘忽ち空に響き行人火事！火事！と絕叫す嗚呼此風此災如何ならんと懸念して堪ゆ僅かのうちに聞知たり是に於て止むを得ず否な止まざるを得ずして中止となりたれば責めてのことゝ少しにても助けやらんと馳せ出てたり然れども幸に町の南端南頬と稱する所にてあたりに空地ありけれは一棟にて靜まりたり元と借屋にて農夫之に住す聞く所によれは小兒の業火より起りたりとなん

大垣の宗教界

なる觀察しされは吾人か勝利たることを期して從ふ可らず寺院の如きも本願寺の末流一町に一說されいふべき程數多し然れども不幸にして心ある人々は皆な僧侶の行ひ措まらざるを罵り僧侶も亦奮發興起するの氣象なきが如し固より本山の役僧來りて說教會を開かざるにあらず其說く所亦不理のみにもあらざるべし然れども心ある者はアーまた金まうけかと嘲るのみ然るに今回の震災の爲めに我黨は救濟に孤兒に看護に其各の盡るところを以て彼等に率先し充分其功を奏したれば公私共好評を博したり且つ貧民の爲めに授產場も我黨の手より起り今や工場新築に取り掛り工人も現在の場所が許す丈十數名のものは既に其業につきつゝあり加ふるに

忠實なる傳道師

本田清次君の如きも熱心主の爲めに働かる氏は元と鹿兒島の男兒なり故に率直人に阿らず故に宣教師に向て上手を言はず從て事情に善く通ぜざる外人の癖として令色の徒を信ずるが如く氏には對せずとの風說あり然れども宣教師が氏を信ぜざると言ふには決してなし要するに如今地震のバプテスマを受けたる此地の人民に獻身從事するの決心深ければ好果期して待つべしと信ず願くは 皇天此傳道者を祝し給へ

求道者

の中に實齋某氏あり俠骨の壯年也每會常に來り會す其說を聽けば實に感ずべきこと多し久しく前より六合雜誌キリスト教新聞日の丸女學雜誌等の愛讀者也と云ふ義にしてかつ慈也震災に際しても夜自ら身を陰かに裝ひて窮民に金員を頒ちたりしが遂に人の知る所となりければ直に止めたりと且つ今や特別に働き利を得て爲す所あらんとすと云ふ一日小野君は之を訪ひて快談を試みたり

高須いせ子

は玉生氏にかわりて大垣病院の看護婦長となられる

因に云はく

大垣 總戶數 四五九七、 全潰 三三五六、 半潰 九六二、
人口 一八三〇六、 死亡 七八九、 負傷 一二七〇、
火災戶數 一四七三、

發大垣向北方町

一月十三日微雪あり霏々又紛々として尚ほ止まず然れども既に北方町に向ふの計畫定まりければ九時半頃旅宿を出で病院自助會及知己等と訣別をなしたり抑是地は震災後永らく留まりたる所なりければ別離の最と惜まれて野由も知己の心地したり再來の時には數多の兄弟姉妹が敎會に加入し居らんことを心のうちに祈りつゝ車輪を走らせたり行く途にも雪尚ほ降りたりしが二里許りにて止みぬ

北方町

に着し直に收稅の官署に至り署長なる上田庸德氏を訪ふ氏は贊成家なれども夫人

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

は大垣にて受洗せられたる人なり依て大垣の本田清次君より紹介せられたる也食後上田君の周旋により菓子業島村政右衛門氏の宿をかりぬ常北方町には常に五軒の旅宿あれども震災後未だあらざれば此地に來る或る人々は紳士の紹介にて通常の家に厄介となるといふ我隊も亦此例によれる也幸に家廣く且つ靜かにして安眠の機を得ぬ

第一回演說會は怱々の間に準備をなし即夜上田君の斡旋によりて裁判所跡なる星野氏の宅をかりたり室廣くして便利少からず然れども多少偏したる地位と時間の足らざりしためと廣告の行き届かざるに拘らず二十餘名のもの靜聽しぬ

鳴動絶えず着後常にごう〱たる音響をきゝぬ昨夜來然りと時に震動亦來れり夜凍月涌冷雪山映じ來りて白皚々

十四日後小野君は醫師井上秀齋氏を訪ふ氏は舊教徒也といふ生憎岐阜に趣かれて不在なりしと

第二回演說會には出來丈の準備をなしたり定時に至り六七十名來り會す大抵中等の地位に立てる人物の如く想はれたり是地は元來政治思想の盛なる地にして自由主義の人多しといふ是夜閉會後聖書を望みたるもの數名あり此人々に向ひ復たづれて研究を勸告したり此中一青年なる席田郡佛生寺の小學授業生には兼て東京を發するに當り我教會員なる第一高等中學在學の内山君より委託せられたる聖書一卷を贈りぬ

要するに此地亦對談して短兵急に迫り或は長圍の陣を張るへき永住傳道者あれは相當の人を派すること決して難きにあらず

然れども注意せよ此地は進歩主義の盛なる所なれは保守的傳道者は不適當也今明言するを憚かれども……此意を澂言せり凡地方と傳道者との關係は敵兵と將師との關係に等し參謀本部は須らく一層の反省と注意とを加へざれば勞して功なきのみならず却て我教の不利となり名折れとなること大方ならずと確信す

到處路谷開

唯日子と熱心の足らざるを嘆ずるのみ‖誰か言ふ傳道の時機尚ほ早しと‖人は言ふ暫く天の時を待つべし自然の機を窺ふべしと然れども公等よ時機は人亦之を導くべきもの也況んや時は今や來れり機は今や迫りたり期は既に滿てり尚ほ四ヶ月を徒に待たんとせらるゝか公等が時機尚ほ早しと言へる時機とは果して何如なる時機ぞ然り公等よ寔に其時機は來れり今や目前に來りて過ぎ行きつゝある也時機來らば乃公須らく傳道すべしといへる公等よ早く來りて宣べ傳へよ公等若し道を傳ふるの精神なくんば則ち止みなん然れども時機を待てりと施ふものよ其時機は既に過ぎ行きつゝある也

根尾谷豐木村望扶斯避病院には我三澤默二郎君在り一隊は明日出發之に向はんとす此地を去ること僅かに二時程なりといふ

笠松禁酒會は來る十七日を以て發會式を舉ぐべし請ひに應じて隊員出陣すべし主に到る所に路を開き給ひたれば感謝の外言葉なし實に濃尾は主既に我等に與へ玉へり

因に云ふ

北方町は　戸數　七八一、全潰　六九八、半潰　八五、
人口　三五〇六、死亡　八八、負傷　一二五、
家屋の損害高　十二万二千四百七十一圓九十錢
諸器物同上　五万六千二百九十圓二十錢
商品同上　十万〇八千百九十四圓〇三錢
合計　二十八万六千九百五十六圓十三錢

一月十四日夜零時五十四分濃州北方町に於て凍月南窓を犯し隣家の乳兒呱々たり

湯谷磋一郎識す

會計

前回迄入合計
紀伊國新宮無名氏
越後岩舟郡關村大字上關、石山忠作
前回迄出合計
東京にて入費
震災地傳道入用九日より十六日迄
橫濱バラ氏へ二回ハガキ
岐阜及植村氏へハガキ二枚
笠松湯谷氏へ電報

（第八回）

○入の部

○百八十二圓六十九錢九厘
○五十錢（郵便切手）
○三圓
合計百八十六圓十九錢九厘

○出の部

○百五十七圓六十七錢四厘
○十九錢　右內譯
二錢（十四日）
二錢（十五日）
十五錢（十八日）
○十二圓五十八錢一厘　右內譯
一金四錢（一月九日）　郵便
一同十五錢　電信
一金十五錢（一月十日）　電信
一同九十九錢　九日宿泊料
一同四錢　車代
一同一錢八厘　紙代
一同五錢　アンマ
一金四十二錢五厘（一月十一日）　郵便切手及端書
一同二十三錢　靴下一
一同四十錢　ズボン下
一同三錢　新聞
一同十一錢　雜費
一金二十五錢（一月十二日）　雜費
一同十四錢　卷紙封筒
一同四錢　新聞
一同十錢　チルガン運賃
一同十五錢　衣類運賃
一同一圓　大垣救濟事務所へ食料
一同十五錢　廣告料
一同二錢　郵便
一同三十九錢　シアッツ一
一金二圓二十錢（一月十三日）　十、十一、十二日宿泊料
一同二十錢　茶代
一同五錢七厘　船渡賃
一同一圓八錢　大垣、北方間人力車三輛
一同五錢　荷物運搬
一同三十錢　郵便切手
一金二錢（一月十四日）
一金十九錢一厘（一月十五日）　ポスト
一同一圓八十四錢二厘　演說會準備費
一同八厘　橋賃
一金四十四錢（一月十六日）　十三、十四、兩日宿泊料
一同三十錢　十五日宿泊料
一同二十五錢　北方、岐阜車二輛
一同十二錢　北方笠松車一輛
一同二十五錢　岐阜笠松車一輛
一同三十錢　茶代
一同十錢　演說會準備費
○五圓　水菓子
中村友吉氏歸京旅費
合計百七十五圓四十四錢五厘
現殘金十圓七十五錢四厘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

品名	十一月廿一日
白米(一円ニ付)	
一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇一
三等米	一〇三
四等米	一〇七
五等米	一一一
正米(一円ニ付)	
尾張米	一斗三升二合
伊勢米	一四三
南部米	一五三
行方米	一四一
土浦米	一四〇
雜穀(一円ニ付)	
本貫大麥	二斗九升五合
上州小麥	一八五
竹林麥	一八五
梅澤大豆	二一三
青柳大豆	一九五
吟小豆	一六五
白胡麻	一三〇
黒胡麻	一五八
鹽(一円ニ付)	
赤穗	三、四〇〇
大鹽	三、五〇〇
本齋	五、四〇〇
新齋	六、〇〇〇
醤油(一円ニ付)	
極上	[illegible]
上物	[illegible]
中物	[illegible]
並物	[illegible]
味噌(一円ニ付)	
地製上白	六、八〇〇
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、三〇〇
眞綿(一個ニ付)	
上々入金	一三〇、〇〇
上入金	一一五、〇〇
並入金	一〇五、〇〇
松入金	九七、〇〇
竹入金	九二、〇〇
梅入金	八五、〇〇
八王子織物(一反ニ付)	
本糸織鼠物	五、〇〇
同替立	六、〇〇
同珍柄	七、五〇
節糸織	四、五〇
同瓦斯入	二、五〇
一樂織	七、五〇
飛地黄八丈	四、五〇
同大柄	六、〇〇
黒地黄八丈	四、七五
岸絣	三、〇〇
玉八丈	二、五〇
甲斐絹	三、七五
同本嶋	五、二五
同書絹	六、五〇
黒八丈	八、〇〇
黒七々子	七、〇〇
白斜子	七、〇〇
嘉平治平	五、〇〇
節仙臺	七、〇〇
仙臺平	八、〇〇
本八端織	六、五〇
本綿冬縞(一反ニ付)	
伊勢改良縞	一、〇七
笠井糸入縞	一、〇〇
瓦斯二子	九〇
同羽二重縞	一、八〇
結城地	八八
本場青縞	一、二〇
製茶(一貫目ニ付)	
山城江州稀大頭	二、五五
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、四五
同中茶	一、二七
狭山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七三
同大頭	一、四五
同中頭	一、三〇
同中茶	一、〇五
鰹節(十貫目ニ付)	
土佐上	二三、〇〇
薩摩大	一九、〇〇
城の腰	一八、五〇
房總中	二〇、〇〇
銚子上	一四、〇〇
水戸磐城	一三、五〇
乾海苔(百枚ニ付)	
淵崎上	[illegible]
大森同	[illegible]
深川砂村同	[illegible]
大師潮田同	[illegible]
上總同	[illegible]
水油(一樽ニ付)	
地水	六、六〇
胡麻	九、五〇
荏油	九、三〇
桐油	五、四〇
綿油	…
坂水	七、六五
石油(一箱ニ付)	
チヤスター	…
デボース	一、六二
ホーキ	一、六四
ロシヤ	一、六二

通信女學第三期生新募廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして奮發學に就かぬは最とく少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉強をさく年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も當學問と云ふとに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきことと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も玆に入學して日々の進歩目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學するとも出來ず又家に教師を引て教を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨及一昨年一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義録を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、其十二月に至り、一ヶ年の課業を恙がなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの八百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義録を再版し、改めて第三回の習讀者を募る。

教授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學、衛生、育兒、看病と合す)裁縫、圖入地理、英學。

教師は、醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田仲子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の教員諸君に委賴し、專ら深切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢(無郵稅)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

明治二十五年一月廿五日第一號を發兌し、以後每月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校に轉ず　明治女學校々醫　荻野ぎん子

面接日　木曜日午后三時ゟ　巖本善治

正四位伯爵冷泉爲紀卿題歌
文學博士黒川眞頼大人序
和卿　羽山尙德先生編纂

普通和文初學

小本全三冊

郵送賃共　正價六十錢

此書は始て國文を學ばんとする者の爲に編述せられたるものにて（上卷）は二欄に分ち下欄には作文の心得國文の沿革假字の用法てにをはの大概發詞結辭の俗譯及び證歌證文並に文章を組立る方法を了解せしめんために古人の文を解剖して一々これに詳解を付し又上欄には字訓字音の假字遣ひと文字の反切を知る方法等何くれとなく作文に必用の事どもを載せ（中下）兩卷は更に三欄に區分し部門を時令、天文、地理、宮室、人事、君道、臣道、飲食、草木、鳥獸、蟲魚、文史、（論說序跋等もあり）記事、軍旅、紀行、日記、神祇、釋類、慶賀、哀傷、傳の數項に分ちて其部門毎に必用の文語を蒐集し作例數編を載せ（中欄）には右文語作例中難解の語を標註し（上欄）には枕詞を二類にして一は冠辭の大意を註し一は冠辭の次句に依て冠辭を求むるの便利を與へ其次には俗語を雅言に譯す其他國文を作るに知らで叶はぬ事どもを網羅蒐集したるものなれば此一書あるときは如何なる國文と雖も作り得られざる事なき古今無類の珍書なり

大阪心齋橋筋一丁目　松村九兵衛

賣弘所
東京京橋區南傳馬町一丁目十一番地　吉川半七
同日本橋區本材木町二丁目七番地　林平治郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊（改正）	上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郞君著	産婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演説	廢娼演説	一冊	同五錢
巖本善治君述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同四錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學士星野愼之介君著	昆虫植物金石採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼辰君著	和畫手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演説著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著	木村鐙子小傳	一冊	同八錢
訓蒙繪双紙	猫と鼠	一冊	同五錢

下六番町六番地
女學雜誌社

早稻田文學第七號目次

釋義
荘子　三島中州氏
万葉集　畠山健氏

講述
德川文學　關根正直氏
シルレル傳　森鷗外氏

評註
丹波與作　饗庭篁村氏
マクベス　坪內逍遙氏

雜錄
漢學の現在及び將來　森田思軒氏
詩話　野口寧齋氏

時文評論
●年首のほぎごと●漢詩改革家●史學の風潮（第二報）●佛教界の文學●三島氏の文話●井上十吉氏●双鶴從西天來●烏有先生に謝す●曲亭主人が原稿●新刊

附錄
八犬傳諸評答集　饗庭篁村氏

本號には**附錄**にて**馬琴翁自筆**の八犬傳原稿（字眞石版）**三種**を添へたり就中、翁が視力衰耗せる最晩の原稿は經營慘憺の活歷史悲絶哀絶天下**絶類の奇品**

一月廿日發兌
發行所　東京專門學校
發賣所　神田一ツ橋通有斐閣

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日本第一等

おしろいいらず化粧用

小瓶 金十錢
大瓶 金廿錢

白妙は薄化粧の料としてつやある美しき白色をあらわし白粉をぬり附たるがごとき氣味少しもなし

白妙は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげるとなし

白妙を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれるとなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白妙は人躰のはだをやわらかにしてつやをよくし眞にゑんびなるはだ合となし色黒き人もしぜんにま白色の美人となるべし

白妙は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白妙はもちまへの香氣によりてもろ／＼の不淨を清むべし

白妙は醫藥衛生の諸學理とあまたのためしとにもとづき○ワセリン○リスリン○チノリン 白色顏料其他いろ／＼の藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉れり白粉とは大にきゝめあり

白妙は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のおそる可きどくをふせぎ前記の實効を有する事は近來かいこくの醫士學士等のじつけんせつとし又わがたび／＼のためしとによりてしかとみとむる所なり乞ふおためしの上御ひようばんをたまへ

此白妙は藥劑師大鐘立岱氏の發明創製するものにして本舖に元販賣を托せらる依て賣始めの祝ひとして**本月二十日より二十七日迄**左の品々の內何品なりとも御好みにまかせ白妙御求めの定價に相當する丈け大强勉景物として差上升れば發賣の當日より陸續御光來を乞ふ

元祖色白くなる三能しやぼん 壹個 拾錢
髪のこやし毛のはへる香油一名美人かつら 一瓶 拾錢
あれ性の御方々は御必用玉子ぬか 壹個 壹錢五厘
御おしろい下ひゞぐすり玉のはだ 壹瓶 六錢

發賣本舖 銀坐一丁目つやふきん **佐々木玄兵衛**

第三版 百人一首講義

新年の讀書に宜し
歌留多遊びに宜し
遺物に宜し
詠歌に宜し

上製美本 三十五錢 郵税六錢

女學雜誌社

普通士女學校入學廣告

本校廿五年一月十一日始業
本校ハ今般教授ニハ內外ノ良教師ヲ撰ミ寄宿取締ニハ本邦婦人ノ手ヲ以テシ務メテ懇切嚴肅ニ教育ノ任ヲ盡サントス通學寄宿共ニ入學ヲ申込マルベシ
東京市芝區三田功運町三十番地

私立普通士女學校

雜誌	一冊	六錢	郵税。五厘	(但府內無郵税)
	十冊	五拾八錢	郵税。五錢	(同前)
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

日本第一等

おしろいいらず化粧用

小瓶　金十錢
大瓶　金廿錢

白妙は薄化粧の料として つやある美しき白色をあらわし白粉をぬり附たるがごとき氣味少しもなし

白妙は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげることなし

白妙を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれることなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白妙は人躰のはだをやわらかにしてつやをよくし眞にゑんびなるはだ合さなし色黒き人もしぜんにま白色の美人となるべし

白妙は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白妙はもちまへの香氣によりてもろ〳〵の不淨を淸むべし

白妙は醫藥衞生の諸學理とあまたのためしとにもとづき○ワセリン○リスリン○チノリン　白色顏料其他いろ〳〵の藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉れり白粉とは大にきいめあり

白妙は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のをそる可きどくをふせぎ前記の實効を有する事は近來かいこくの醫士學士先生のおつけんせつとて又わがたび〳〵のためしとによりてしかとみとむる所なり乞ふおためしの上御ひようばんをたまへ

此白妙は藥劑師大鐘立岱氏の發明創製するものにして本舖に元販賣を托せらる依て賣始めの祝ひとして**本月二十日より二十七日迄**左の品々の內何品なりとも御好みにまかせ白妙御求めの定價に相當する丈け大强勉景物として差上升ればば發賣の當日より陸續御光來を乞ふ

……色白くなる……
髪のこやし毛のはへる香油一名美人かつら　一瓶　拾錢
あれ性の御方々は御必用玉子ぬか　壹個　壹錢五厘
御おしろい下ひゞぐすり玉のはだ　壹瓶　六錢

銀坐一丁目つやふきん
發賣本舖　佐々木玄兵衛

第三版

百人一首講義

上製美本　三十五錢　郵稅六錢

新年の讀書に宜し　遣物に宜し
歌留多遊びに宜し　詠歌に宜し

女學雜誌社

普通士女學校入學廣告

本校廿五年一月十一日始業
本校ハ今般教授ニハ內外ノ良教師ヲ撰ミ寄宿取締ニハ本邦婦人ノ手ヲ以テシ務メテ懇切嚴肅ニ敎育ノ任ヲ盡サントス通學寄宿共ニ入學ヲ申込マルベシ
東京市芝區三田功運町三十番地
私立普通士女學校

雜誌	一冊	六錢	郵税。五厘	(但府內無郵稅)
	十一冊	五拾八錢	郵税。五錢	(同)
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

東京市麴町區下六番町六番地
發行所　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三